

グラビア	地域を支える人 松浦城太郎さん・静岡県西伊豆町	1
発掘！地域の希望のタネ	〈門川の魚図鑑・門川の魚かるた〉宮崎県門川町	5
給食のじかん	〈菊花和え〉福井県越前市	天谷利恵 6
書評	山本謙三 著『異次元緩和の罪と罰』	菅原敏夫 8
焦点	過疎地における郵便局の新たな役割の模索 —可能性と課題	坂本 誠 10

特集

2025年度自治体財政と石破政権の課題

解説	石破内閣のカラーが見えない予算 —2年ぶりの前年比増で過去最大規模を更新	財政問題研究会 18
解説	2025年度地方財政計画と地方財政 —規模拡大と財政健全化の両立	飛田博史 28
	石破政権の地方創生と最低賃金引き上げの行方	神田慶司 43
	2024年 年金財政検証とその課題	駒村康平 51
インタビュー	「103万円の壁」 引き上げで働き方は変わるか	永瀬伸子 59

しまね自治研記録

分科会レポート②		
第2分科会	地方を変える、AIの力	林 佑宜
第5分科会	いのちを守る防災・減災計画 ～震度7・その時あなたは～	玄馬誉士 清時 宰 66
第6分科会	地域公共交通の現状と課題 ～交通弱者をつくらないまちづくり～	九州地連
機関誌案内		65
次号予告・編集部から		72



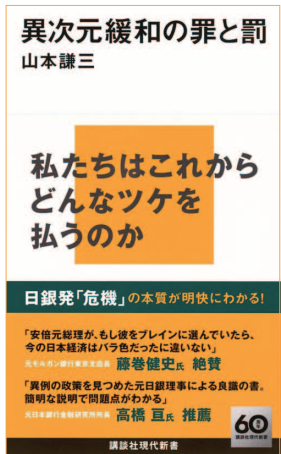
『異次元緩和の罪と罰』

講談社現代新書、二〇二〇年

山本謙三 著

アベノミクスの罪と罰

二〇二四年六月号の本欄で『ガバナンス貨幣論』を取り上げ、今日の超巨大な金融システムは、中央銀行・民間銀行の専門家集団の職業的良心と技量に基づくコントロールによってのみ持続可能。現状もまあまあ。自国通貨（円）建て国債では財政破綻しないという論（MMT）にも一理、という見方を紹介した。著者



は元日銀幹部。

本号の著者も元日銀幹部(理事)。だが結論は正反対。黒田バズーカと異次元金融緩和・アベノミクスはもうすでに「罪と罰」の段階で、引き返すのは難しい。世界トップレベルの財政破綻候補だ、と同じ日銀の中の人でもこんなに意見が違うのか。

正否は本誌読者に委ねよう。本誌も財政を論ずる本号を起点に連載を検討、政府の借金、国民の資産を深掘りする。

日銀総裁

さて本書。出発点は二〇二三年、黒田東彦の日銀総裁就任。元財務官僚、時の首相は安倍晋三。就任直後、バブル崩壊後の失われた二〇年を取り戻すべく採用した政策は「異次元金融緩和」「黒田バズーカ」。発表の記者会見で掲げた目標は、物価安定目標「二%」、達成期間「二二年、通貨供給量「二二年で「二倍」、国債保

有量「二二年で「二倍」。ずらっと二が並び、日銀の金融政策というより、何かの縁起物のようなのだ。

国債と通貨供給量は異次元に増えたいけれどもその他の目標は一年経っても達成できず、日銀総裁が交代してやっと金融正常化に舵を切った。

市民のための経済学

こんなに物価が上がっているのに、日銀の見立てでは、まだ持続的・安定的に「二%には届いていないのだそう。誰のためのアベノミクスだったのか。

私たちの関心、地方財政はどうだろう？ 新春のニュースは、二五年度赤字地方債「臨時財政対策債」ゼロ、財政赤字脱却だった。財政健全化達成とまでは言えないが、朗報だ。国と自治体、この違いはなんだ。両方を統一的に理解する市民のための経済財政学を求めている。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員